

**第8回 大森駅周辺地区グランドデザイン策定にかかる学識者検討委員会
議事録**

日 時	平成22年12月13日（月） 午後6時30分～午後8時30分
会 場	エセナおおた 3階 会議室
出席者 (順不同)	学識者検討委員会メンバー：中井委員長、屋井委員、村木委員、池邊委員 庁内検討委員会メンバー：杉坂再開発担当部長、水井経営担当課長、井出資産活用担当課長、木田国際都市・多文化共生担当課長、落合新井宿特別出張所長、青木観光課長、田中福祉管理課長、伊藤まちづくり管理課長（交通企画担当課長兼務）、黒澤都市開発課長、齋藤まちづくり推進部副参事（調整担当）、杉村都市基盤管理課長、廣瀬連続立体事業再開発担当課長、原大田図書館長、森永大森地域計画担当課長（司会）
傍聴者	9人（アンケート実施）

1 開会

2 学識者検討委員会委員、庁内検討委員会委員の紹介

3 学識者検討委員会開催（【 】：学識者、（ ）：庁内委員）

（議事は中井委員長）

（杉坂庁内検討委員長）

今回は第8回目の学識者検討委員会で、今年度3回目の委員会になる。今年度末をグランドデザイン策定の目途としているが、地元意見交換会、地元説明会、パブリックコメントを経てだいぶ形になってきたと思う。今日は、さらに学識者検討委員の方々にご意見を賜り、より完成度の高いものへ仕上げていきたい。

【中井委員長】

3年前に蒲田グランドデザインから始まり、蒲田を昨年度策定し、いよいよ大森も大詰めという段階にきている。今日はこの原案をもとに色々とご意見等頂ければと思う。

（事務局）

コンサルタントより資料を説明。

■グランドデザイン原案について

【池邊委員】

かなりまとまってきたかなという印象を受けた。少し気になるのが、ハードのまちづくりとソフトのまちづくりの関係性や連続性が見えづらい。ハードとソフトが循環しあって将来に向

けたグレードアップを考えることが必要。

【屋井委員】

グランドデザインで、大森の魅力が伝わるようにしたい。大森の取組みがこの中で紹介され、現状でも努力されている。しかし、他のまちの事例が多く記載され、大森が埋もれている印象を受ける。例えば、写真などを活用して、現在の魅力も伝えられれば良いと思われる。ルール作りは住民の取組みが多いが、住民に任せておくだけでは難しい。ルールにも様々なものがあるが、住民に投げるのではなく、行政も協力するような表現があれば良い。

【村木委員】

6章は「行政が主導的」、「地域住民が主体的」となっているが、住民の取組みのほうが早く成果があがると思われる。海外の中心市街地活性化では、「(2) 住民主体」の内容から入って、そのあとで「(1) 行政主体」の内容が入ってくるものもある。連携体制をつくりながらハード整備を進め、地元の理解が得られることも考えられる。1つの案として、行政主導の取組みを後に示す方法や、行政と住民を明確に区分しない方法も考えられる。また、6章では、それまでに出てきた同じ内容が繰り返される印象を受けるので、5章までに6章の内容を入れ、整備する順番として7章で説明する方法も考えられる。

(黒澤委員)

来年4月から、「地域力を生かした大田区まちづくり条例」が施行され、地域の皆さんの取組みにつ

いても支援できるようになる。具体的には地区計画に少し踏み込んだ支援や、まちづくり憲章と地区計画の中間的なものとして、まちづくりガイドラインがあるが、区への登録制という規定していく予定。現状では、蒲田と大森に1件ずつガイドライン事例がある。

(森永委員)

大森の現状を含めた表現については、すでに行われている取組みを含めて、これから工夫していくみたい。ハードとソフトのまちづくりの関連性については、第6章のところでもうひと工夫したい。

【屋井委員】

目標④と目標⑦において、自転車などに関する記述が重複するので、整理すること。

【池邊委員】

「大森の魅力発信」の取組みについては、情報発信するだけでなく、地域の魅力を磨き、創造することも盛り込んではどうか。例えば、大森の人たちのライフスタイルを考え、さらに外から人をひきつけるにはどうすべきか、将来の大森が輝き続けるためには何が必要なのかについて考えてはどうか。歴史や文化など、大森らしさが将来像からアクションプランまでうまく流れていかない。

(斎藤委員)

優先的に取組むアクションプランの基盤整備について、昨年度蒲田でもグランドデザインを策定し、今年度は基盤整備専門の調査研究会を立ち上げた。地権者意向調査や組織化、エリアマネジメントも検討している。行政主導のハード整備には、ハードだけではなくソフトも一緒に組み合わせて進めていく必要がある。大森もそのような流れになると思う。

【中井委員】

優先的な取組みについては、なぜ優先的なのかというところがよく分からない。取り掛かりやすさや、重要性、波及効果の大きさなど、優先する理由を示す。

(森永委員)

行政主導については、早い時期から検討が必要なもの、地域主体については、波及効果が大きいと考えられるものを提示している。6章の構成については、ご意見も踏まえて柔軟に考えたい。

【中井委員】

大森駅周辺の基盤整備が、なぜ優先度が高いかというのは、東西2つのエリアをつなぐという意味合いだと思う。駅を挟んだ東西のエリアをつなぐという考えが弱い。つなぐことで地域のポテンシャルを上げるという考えが必要。また、魅力発信と東口の整備がどのような関係があるのか、同様に西口でもどうか、といったことも考え、駅整備だけでなく、どのようにつながりがあるのかを意識して考えてほしい。

(斎藤委員)

取組みの面的広がりも意識して、波及効果も考えたものにしていきたい。

【屋井委員】

優先的な取組みのハード面については、行政だけでなく民間も一緒に取組むような考えを入れては、どうか。「⑦-4 駅周辺の交通環境の改善」では、東西自由通路だけでなく、広い視点から地域交通を考えているようだが、優先的取組みには入っていない。この⑦-4の考え方を引き継いで6章につながるということが分かるようにしてほしい。

【中井委員】

P30の目標⑦のところは、⑦-1、2、3は取組みの方向が6章で詳しく出ている。他のアクションプランも取組みアイディアや事例が書かれている。⑦-4だけが記述が少ない。

(森永委員)

⑦-4については、都市計画マスターplanの考え方を引き継いでおり、それ以上はここで踏み込んでいない。

【屋井委員】

P 4 0と照らし合わせて、文書をもう少し記述すると良い。

(杉村委員)

駅の東西での高低差を踏まえた対応や、自転車の利用実態を踏まえたソフト面での取組みなどを踏まえて考えたい。歩行者、自転車のルートなど地域全体として考えていきたい。

【屋井委員】

目標⑦にやや不足しているのは、公共交通だと思う。その考え方を都市計画マスタープランと整合して、追加してはどうか。

【中井委員】

P 4 4、4 5は安全な歩行空間の確保ということで、本来はエリアの話になるが、東西自由通路の話が中心になっている。歩行者空間については、駅の通路だけでなく、エリアとしてどう考えるかを示す。例えば、駅近くは歩行者主体で、自動車はどのようにするのかなどを考えてはどうか。

【池邊委員】

緑についての記述についてだが、緑の台地エリアだけで良いのか。さらに住宅地だけのように記述されている。自転車で散策することを考えると、商店街や広場、街路などももっと緑豊かで美しい大森を目指したほうが良い。また、緑は緑被率が高ければ良いというわけではなく、美しい緑を創造するといった考え方も取入れてもらいたい。地域全体へ効果的な緑の取入れ方なども書いて欲しい。アクションプランの名前も「緑の保全と充実」となっているが、「美しい緑の創造」など、オープンガーデンなどを意図できるような形にして欲しい。

(伊藤委員)

緑の基本計画でも、量だけでなく質の問題も考え、場所に応じた緑を考えているので、反映させていきたい。

【村木委員】

目標③の内容に臨海部へのアクセス(③-1)と、ユニバーサルデザイン(③-2)が入っているが、この配置でふさわしいか。

(森永委員)

歩きやすいという意味合いを、若干追加していきたい。

(田中委員)

この部分だけでユニバーサルデザインを示すわけではなく、記載内容及び位置については検

討する。

【中井委員長】

起伏が激しい緑の台地エリアも実は、ユニバーサルデザインは重要だろう。

(田中委員)

現在、ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針を策定中だが、その中の部局を横断して展開するモデル事業をこの緑の台地エリアで検討している。同じ時期に策定される計画だが、齟齬をきたさないよう調整したい。

(杉村委員)

ユニバーサルデザインについては、国際化への対応を考えた時に、サイン整備や歩きやすさは、まちなかの回遊性につながると思うが、あまり報告書に打ち出せていない。そのような広い視点で回遊性が担保できるようにしたい。

【中井委員】

エリアの名称がどこでも使えそうに感じる。大森らしさも含めたものとして、今後検討してもらいたい。

【屋井委員】

アクションプラン③-1 の利便性の高いアクセスを実現する交通ネットワークの検討については、羽田空港国際化を受けて、ネットワークを考えていくことは、優先的アクションプランにしても良いレベルの内容だと思う。

【池邊委員】

今のエリアの名前にも関係するが、大森らしい格調高く、大森の資源を踏まえた、風格、風情が感じられるようなものにして欲しい。

以上

○当日傍聴された方からのアンケートのまとめ（要旨）

分野	ご意見
都市基盤 整備	新井道（ガード下）について、P39では緊急性の高い課題に含まれていない。（南側からの）車は右折で新井道に進入できない為、どこかでUターンしたり、他の進入禁止道路を通行している。また、狭い新井道を自転車、歩行者が大勢通行しており、大変危険で事故も発生している。緊急な対策をお願いしたい。
	このグランドデザインは、大森地区（特に西口）の起死回生の大チャンス。西口が衰退した大きな理由は、東側へのアクセスが不便なことや、道路や観光ポイントがつながっていない事であると思う。
緑関係	山王エリアのアクションプランに、緑の保全と充実がうたわれているが、現状は毎日、緑資源がバッサリと切られている。現在、緑の基本計画の素案が出され、パブリックコメント中だが、条例をつくることが入っていない。池邊委員が話された通りで、美しい緑づくりや緑の質が大切である。緑の保全と充実は緊急を要している。
ルールづくり	ルールづくりは、屋井委員の話された通りで色々な種類がある。住民にのみ任せないで、行政にも進めていただきたい。現在、住環境保全するために、地区計画案を区に提出しているが、住民の力だけでは出来ないことを痛感している。P51のアクションプラン⑨-1：住み続けたい山王の維持・形成に「行政との協働」という文言があると良いのではないか。